

制作概要

環境を主題として制作している。言い換えれば、見えない形、つまり「気象」と「場」を対象にしていると言える。

それは、温度、気圧、湿度、光（影）（色彩）、水（雨）、風、地理などの自然現象と、歴史、文化、時代が渾沌として、その風土の中から生まれてくるのが人間と作品だと考えているからだ。

作品は感受性において現象世界を受信し、創造性によって現象世界に発信する装置であり、渾沌を更新する。

彫刻作品は「現実の中に在る」ことの意味において「立体的な存在である」特徴を持ち、変化する環境と人間の命の中で「時間」の概念を獲得する。

今回、展示場所となった大谷記念美術館正面ロビーは写真にあるように流動的空間である。人々は昼間だとやや薄暗い建物の入り口から通路を進み左右に大きく広がる空間、全面ガラス張の向うの日本庭園の様々なメッセージが光と共に屋内に流れ込む空間〔風、薫り、温度、湿度などの自然現象は断絶されるが〕、方形の天井を楕円形に穿って間接照明を施した重層的、多目的な空間で作品と出会う事になる。

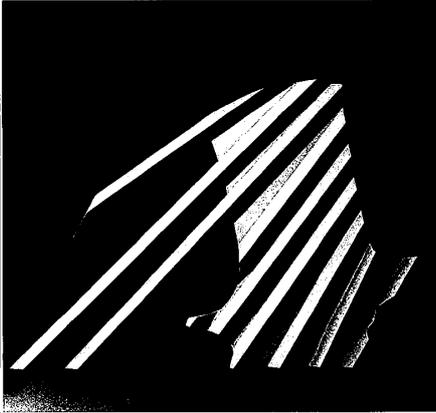
作品はこの空間でどのように環境を受け入れ、調和する形象が可能かを検証する事と、空間に潜む光の在り方を探る事で、様々な角度から実験された作品例が今回の作品構造を示していると考えている。

北野 正治

「光雨」

第31回西宮市芸術祭

大谷記念美術館



北野 正治

光の中を歩く

1500×600×60mm

シナ材

日本基礎造形学会 熊本県立美術館

環境を受ける形象、受信し発信する作品は
やがて意味をずらしていく、その色、その
形はそれぞれ自由に振る舞うかのように見
える。



北野 正治

光の中を歩く

2400×3000×1500mm

2001年

シナ材

光のコンベ2001 淡路島夢舞台温室・奇跡の星の植物





北野 正治
「光雨」 2004年
8000×3000×150mm
シナ材
第31回西宮市芸術祭
西宮市大谷記念美術館